会長		担当理事		会計	

埼医業Ⅰ第 1825 号
令和 5 年 12 月 13 日

郡市・大学医師会長　　殿

埼玉県医師会長　　金　井　忠　男
（担当常任理事　　登　坂　英　明）

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の増加について

標記のことについて、県保健医療部長から別添（感対第 1011-1 号）のとおり通知がありました。

つきましては、お忙しいところ恐れ入りますが、貴会管下会員あてご周知くださいますようお願いいたします。

担　当：業務課業務Ⅰ担当　石田
ＴＥＬ：０４８－８２４－２６１１

埼加八潮医師会
収受
5.12.14
第 932 号

感対第 1011－１号
令和５年１２月８日

一般社団法人埼玉県医師会
会長　金井　忠男　様

埼玉県保健医療部長　表　久仁和
（公印省略）

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の増加について（周知）

感染症対策の推進につきましては、日頃格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、埼玉県感染症発生動向調査事業において全数報告の五類感染症に位置付けられている「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」について、令和５年６月以降、報告数が増加している状況があります。（別紙参照）

つきましては、貴会会員への周知について特段の御配慮をお願いいたします。

担　当：感染症対策課
感染症・新型インフルエンザ対策担当
電　話：０４８－８３０－７３３０
ＦＡＸ：０４８－８３０－４８０８

別紙

2023年12月8日

埼玉県における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生状況について

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は感染症法の五類感染症になっており、その発生状況は埼玉県感染症発生動向調査事業 週報（感染症情報センター - 埼玉県（saitama.lg.jp））でも毎週、公表している状況です。

同事業における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告数は2021年30人、2022年41人、2023年（12月3日まで）52人と増加傾向にあります（表）。2023年の52人のうちA群溶血性レンサ球菌が32人(62%)、G群溶血性レンサ球菌が11人(21%)、B群溶血性レンサ球菌が7人(13%) から分離されました。また、10月下旬の43週以降に診断された患者17人のうち15人(88%)からA群溶血性レンサ球菌が分離され、A群溶血性レンサ球菌を起因とする症例が増加しています（図）。

表 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生状況

報告年	分離株の血清群										総計
	A群	%	B群	%	C群	%	G群	%	不明	%	
2021年	11	37%	2	7%	0	0%	16	53%	1	3%	30
2022年	13	32%	8	20%	1	2%	17	41%	2	5%	41
2023年(12/3まで)	32	62%	7	13%	0	0%	11	21%	2	4%	52

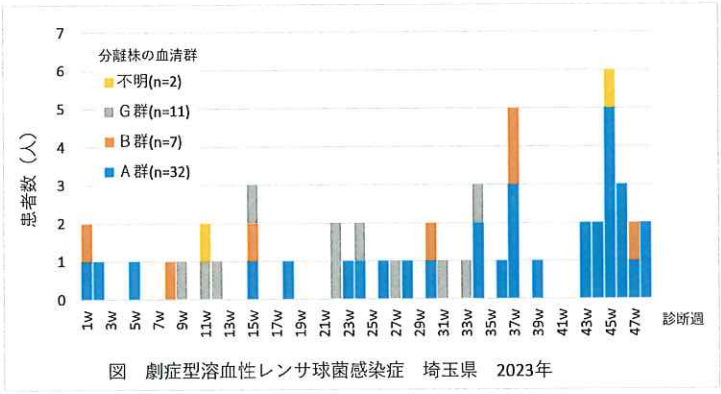


図 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 埼玉県 2023年

レンサ球菌性毒素ショック症候群(STSS)はA群溶血性レンサ球菌によって起こります。A群溶血性レンサ球菌の一種に発赤毒素の産生量が多く、咽頭炎を呈する頻度が高いとされている $M1_{UK}$ 株があり、日本国内での $M1_{UK}$ 株の検出は2019年23株、2020年4株、2021年1株、2022年1株、2023年6株（9月末時点）です。埼玉県内では2023年6月以降に診断された患者の検体から既に7株検出されており、注意が必要です。劇症型溶血性レンサ球菌感染症と診断した場合には、速やかに発生届を提出していただくようご協力をお願いします。

埼玉県衛生研究所
（埼玉県感染症情報センター）
TEL: 0493-59-9325
e-mail: p5349952@pref.saitama.lg.jp